

## 「神との関係がいのち」

ヘブル人への手紙8章7～13節

1

神は人々の欠けを責めて、こう言われました。「見よ、その時代が来る。—主のことば—そのとき、わたしはイスラエルの家、ユダの家との新しい契約を実現させる。その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握ってエジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。彼らはわたしの契約にとどまらなかったの、わたしも彼らを顧みなかった。—主のことば—  
— ヘブル8:8-9

2

これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである。—主のことば—わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。彼らはもはや、それぞれ仲間に、あるいはそれぞれ兄弟に、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らが見な、小さい者から大きい者まで、わたしを知るようになるからだ。わたしが彼らの不義にあわれみをかけ、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」 ヘブル8:10-12

3

### 新しい契約(関係)

- イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、**すべての権威**が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。**父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け**、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、**いつもあなたがたとともにいます。**」 マタイ28:18-20

4

### 新しい契約(関係)

- それとも、あなたがたは知らないのですか。**キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたものではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むため**です。ローマ7:3-4

5

### 新しい契約(関係)

- そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ**罪を赦していただくために**、悔い改めて、イエス・キリストの名によって**バプテスマを受けなさい**。そうすれば、**賜物として聖霊を受け**ます。使2:38
- 食事の後、同じように杯を取って言われました。「**この杯は、わたしの血による新しい契約**です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」 1コリント11:25

6

### 生きる関係

- 御霊は私たちに聖書を与え、真理へと導く。 2テモテ3:16-17、2ペテロ1:21、ヨハネ16:13
- 同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださいるのです。 ロ-マ8:26
- 私たちを成長させてくださる。 2コリント3:18

7

### 生きる関係

- 神の聖霊を悲しませてはいけません。 イェソ4:30
- 御霊を消してはいけません 1テサロニケ5:19
- キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい。ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行いなさい。 コサ13:16-17

8

### 「済み」より「住み」

- 私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。 コサ2:14
- あなたがたは知らないですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれている、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。あなたがたは、代価を払って取り除かれたのです。ですから、自分のからだをもって神の栄光を現しなさい。 1コリント6:19-20

9

### 「赦し」と「許し」

- 見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。 黙示3:20
- 天の国＝神の国＝神の支配（「御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。」私の生活、心を治めてください！）

10

### 神との関係がいのち

- 「信じさえすればいい」という考え？
- 「救われて天国に行ければいい」？
- 「救われたらこっちのものではなく神のもの。」人生の国有化、天国有化
- 「天国行きの前に、天国生き」
- 旧約も恵みの制度、それを宗教的、儀式的なものにしてしまった。
- 「信仰義認」を儀式的なもの宗教的なものにしてしまうことは可能。

11

私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。 ヘブル4:15-16

12